

## 第1回北海道新幹線並行在来線対策協議会 議事録

日時：平成24年9月7日（金）  
11：00～11：30  
場所：道庁知事会議室

### （総合政策部長）

- 私は、新幹線を担当する総合政策部長の荒川です。
- 本日は、お忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。ただいまから、北海道新幹線（新函館（仮称）・札幌間）開業に伴いJR北海道から経営分離される函館線（函館・小樽間）の地域交通の確保などについて検討する組織として、仮称ではありますが、北海道新幹線並行在来線対策協議会の設立に関する会議を開催します。
- まず、開会に当たり、高橋知事からご挨拶を申し上げます。

### （知事）

- 本日はご多忙の中、沿線自治体の皆様のご出席を賜り、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。
- 皆様には、北海道新幹線の札幌延伸の実現に向け、長年にわたる要請活動にご尽力いただけてきたことに心からお礼を申し上げます。
- そして、昨年においては、札幌延伸の実現性が高まり、それぞれ課題がある中で、経営分離に関する同意のご内諾をいただいたところであり、このことが、昨年末の政府の方針決定や、本年6月下旬の札幌延伸の正式決定につながったものと考えております。改めて心から感謝申し上げます次第です。
- 北海道新幹線の札幌延伸の実現によって、本道にとっては、道内全体の交通ネットワーク網の大幅な改善ということにも資する訳ではありますが、加えて、東北や北関東、さらには首都圏との観光やビジネスをはじめとする、さまざまな分野での連携・交流の拡大、そのことが道内各地域の活性化にもつながるものと考えているところです。
- 同時に札幌開業後における同意をいただいた各沿線地域の皆様方の交通手段をどうするのか、そして住民の皆様方の足をどのように確保していくのかということは大変重要な課題であり、私どもとしては札幌延伸の新幹線事業を円滑に行うことと同時に、この重要な課題を皆様方と知恵を出して解決していかなくてはならないと考えているところです。本日の会議は、こうした皆様方との時間を掛けた議論のスタート点になるものとして理解しているところです。
- 函館線の函館・小樽間は、総延長280キロを超える長い路線であり、利用者の状況など、それぞれ地域によって異なっているところではありますが、本日ご出席の15の市と町、そして道が共に知恵を出して協力しながら、今後の方向性を札幌延伸の完成の前までにしっかりと出していかなくてはならないと考えているところです。
- このため、並行在来線対策協議会においては、札幌開業の時期を見極めながら、将来に

おける利用者の見込みや、並行在来線に対する国の各種支援制度の見通しなども十分に勘案するなどしながら、地域交通の確保に関する協議・検討を進めてまいりたいと考えており、皆様方のご理解、ご協力を心からよろしく申し上げます。

(総合政策部長)

- それでは、早速お手元の議事次第に従いまして議事に入ります。この後、協議会の設置要領や座長を決定させていただきますが、座長が決まるまでの間、私が進行を務めさせていただきます。それでは、まずはじめに、議題1の北海道新幹線並行在来線対策協議会の設立について、事務局から説明します。

(新幹線・交通企画局長)

～資料1により説明～

(総合政策部長)

- ただいま、説明申し上げた協議会についてと、そのベースとなる設置要領(案)について、ご質問・ご意見等があれば、ご発言願います。

～意見なし～

- 特にご意見等がないようなので、設置要領(案)のとおり、協議会を設立することで、よろしいですか。

～ 了承 ～

- 皆様のご了承のもと、本日付けをもって、北海道新幹線並行在来線対策協議会を設立することとします。この後の進行は、高橋知事が座長として進めさせていただきます。

(知事)

- それでは、正式に協議会が立ち上がったということで、議事進行役を務めさせていただきます。議題の(2)北海道新幹線並行在来線対策協議会の検討スケジュールについて、事務局から説明します。

(新幹線・交通企画局長)

～資料2により説明～

(知事)

- 議題(2)の北海道新幹線並行在来線対策協議会の検討スケジュールは、ご説明させていただいたとおり、具体的な調査研究・検討は、各ブロック会議や幹事会を中心に行い、重要な決定事項などは、この協議会で取り扱ってまいりたいと考えていますが、ご意見・ご質問等があれば、ご発言願います。

(七飯町長)

- スケジュールの中で方向性の決定時期を開業の5年前とありますが、開業は2035年を指しているのですか。

(総合政策部長)

- 現時点ではそのとおりです。整備促進についても別途取り組んでいきますので、それを見極めながらということになるかと思えます。

(知事)

- それ以外にご意見等がありますか。

～意見なし～

- では、資料2のスケジュールで進めさせていただきます。最後に議題(3)のその他ですが、自由な質疑ということで、是非、ご発言願います。

(長万部町長)

- 実は、8月25日北海道新幹線認可着工を受け、長万部町において開催された起工式並びに祝賀会に高橋知事をはじめ、沿線自治体の首長にご出席いただきまして、盛大に終了させていただいたことについて、改めてこの場を借りまして厚くお礼申し上げます。
- 私からは3点ほど発言をさせていただきます。高橋知事には、私ども函館線沿線自治体における在来線のあり方等を検討する協議会を立ち上げていただき、誠にありがとうございます。
- 今後は、ご説明のあった方法で道と関係自治体で協議・検討を行うようよろしくお願い致します。
- 思い起こせば、四十数年にわたる道民の悲願であった北海道新幹線が、現実になりましたことは、私たち運動を推進してきた者として、まさに歓喜の至りに堪えない喜びでございます。改めて、高橋知事及び関係機関の皆様方に対しまして、感謝を申し上げます次第です。札幌の完成まで、先ほどもありましたように24年間とかなりの時間がかかり、また、それに伴う並行在来線の運行についても、かなり遠い将来のことですので、今現在、具体的なことを申し上げることはありませんが、私の思いを発言させていただきますので、よろしくお願い致します。私の思いでありますので、改めてコメントを求めるものではありません。
- 私ども渡島側としては、函館線の沿線自治体連絡協議会（北海道新幹線渡島沿線自治体連絡協議会）をつくり、札幌延伸の促進や並行在来線の存続に向け活動してきました。そこで、私どもが活動してきた何点かを申し上げ、ご理解をいただきたいと思えます。
- 1点目は、並行在来線の問題です。JRは住民が毎日通勤、通学あるいは通院などで利用しており、これが廃止になると住民の足が奪われることになり、住民生活や地域経済への影響が甚大となり、我々としては、今後、地域住民への対応が求められることは必

至と考えております。この点を汲み取っていただきたい。

- 2点目は、函館線の歴史的な意義についてです。函館線は明治37年に開業し、JR北海道が営業する経営距離の1割を占める、北海道開発と共に歩み、その歴史的意義は非常に高いものであると思います。利用者あっての在来線との考え方に立ち、並行在来線と新幹線を連携させ、地域にとっては勿論のこと、北海道にたくさん訪れる道内外からの観光客にとってもいかに魅力ある交通網を構築できるかを考えるべきではないかと思っています。
- 3点目は、貨物列車を活用した工夫・検討の提案についてです。日本国の食糧生産基地の北海道から全国各地域に食糧を提供する運輸手段としてはJR貨物は大きな役割を担っており、北海道新幹線開業後も貨物列車が青函トンネル内を共用走行する形で、JR貨物が運行することが計画されています。そこで、貨物列車が運行する函館線の鉄路を活用し、旅客運行についても道庁内部において検討いただくよう努めていただきたい。
- 私ども渡島沿線自治体連絡協議会としても、北海道新幹線建設促進期成会などとも連携して、一日も早い札幌までの開業に向け、関係機関への運動を展開してまいりたいと考えていますので、今後とも高橋知事をはじめ、皆様方のご指導・ご協力をお願いします。

(知事)

- 長万部町長におかれましては、むしろ冒頭に、私から感謝を申し上げなければならなかったことであり、起工式の開催に向けて、地元として調整等大変ご苦労をお掛けしたかと思えます。心から感謝を申し上げたいと思えます。ありがとうございます。

(蘭越町長)

- 協議会が設置され、一步前進したと思えます。ただ、二十数年後の話であるため、一つお願いがあります。北海道も人口が減少していくし、沿線自治体においても人口減少・過疎という問題があります。そこで、経済状況も含めて一度資料を作成していただきたい。現状の考え方で議論しても、3年や5年で時代が変わります。そう考えると産業・経済や人口流動がどうなっていくのかということ資料を出していただきたい。

(総合政策部長)

- 今後、ブロック会議などにおいて、需要予測を行っていく中で、将来予測があるし、経済環境も含めて幅広く検討していけるよう、私どもとしても努力してまいります。

(知事)

- 二十数年後を例えば十数年後とするといったことも、皆様方のご協力を得て運動をしていきたいと思っています。

(森町長)

- 東海道新幹線は4～5年で工事が終わっており、今の時代、24年というのはあまりにも遠い未来。長くても10年後には開業するような努力をしなければならないと考えます。長ければ長いほど、費用も無駄に掛かるので、考慮していただきたい。

(知事)

○211kmの建設区間では多くのトンネル工事を伴うと聞いており、物理的にどの程度時間が掛かるのかということもあろうかと思えます。また、小樽・札幌間は用地取得が生じるため、総論では賛成でも各論では自身の土地を買収という話があるといろんな議論があると思えますので、そういったことも含め、できる限り短縮化をしていきたいと思えます。

(余市町長)

○私どもとしては1万1千人の、町民半分ほどの署名もありましたし、1日千人以上の利用客があります。また、議会でも全会一致で経営分離反対という事実もありました。しかし、今までの活動と今後の北海道の発展、そして余市町はどうあるべきかということから、最終的に同意の決断をしました。今、こういう形で協議会が設置され、スタートラインに立ったところであり、今後、ブロック会議の中でしっかりと鉄路存続と発言していきたいと思えます。

(知事)

○これからそれぞれのブロックごとのさまざまな事情の違いもあると思えます。後志のブロックにおいて皆様方と知恵を出しながら、将来予測も踏まえて方向性をしっかり議論してまいりたいと思えますので、ご理解ご協力を心からお願いします。

○3年後の平成27年度には、いよいよ北海道新幹線時代の幕開けとなります。仮称ではありますが、新函館駅が開業します。この開業効果を道南地域、渡島の方々のみならず檜山の方々も含めて、道南地域はもとより、道内全体に広げていくことが何より重要と考えているところであり、また、札幌開業が先ほどから申し上げているとおり、一日も早く実現できる形になるように、今後とも皆様方と取り組みを進めていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いします。本日は誠にありがとうございました。

(以上)